

実施方針

Sendai Memorial Circle

仙台メモリアルサークル

過去・現在・未来をつなぎ、新しい文化を創造する「サークル」の集合体

1 設計の理念と考え

1-1 みんなを巻き込む（サークル型）設計手法

合理的で、誠実で、楽しく、新しい、そんな設計プロセスで本プロジェクトに取り組みます。多くの専門家と対話し、様々な検討を行い、知見をまとめ、議論を重ねて設計を進めます。そこで得た知見や議論を公開し、フィードバックを得てさらに設計に活かす、参加型設計プロセスを行います。基本設計段階から音響、舞台、震災等の専門家と協働し、さらにサイン計画や家具、ランドスケープといった専門家とも様々な議論を重ねながら、様々な分野の先端が建築に統合されるような、分野横断型設計手法です。

1-2 シンプルなロジックから生成される空間

震災復興のシンボルであるアカマツをグリッド状に植え、そのグリッドから派生する円弧状の「サークル」が重なりあい、建築の形が生成されていきます。建築の内外だけでなく敷地外の遠くに思いを馳せるための新しい設計手法です。基本パラメーターの入力値を変化させることで空間が半自動で生成されるようプログラムを作り、設計の効率化と膨大なバリエーションを検討するためプロシージャル型設計手法に取組みます。シンプルなロジックだからこその設計手法で、新しい建築を生み出します。

1-3 敷地の環境を読み込んだ丁寧な設計

青葉山公園・広瀬川には特段の配慮をし、建物高さを抑え、環境に溶け込む優しいファサードを形成します。大ホールを敷地北側、小ホールを駅側、搬入口・楽屋等を西側道路沿いにまとめることで、フライタワーが敷地中央北となって影を落とす範囲を最小としながら圧迫感を低減し、同時に来場者と関係者の動線を分けた効率良い配置計画が可能です。

1-4 過去 / 現在 / 未来を象徴する平面計画

独立して使用もでき、大きなイベント時には最大110mのひとつながりの空間となる「ステージの帯」は、自由さを持ちながらも先端の設備を整え、音楽や舞台などこれまでの技術の蓄積の先端に位置付けられるような、完成された文

化を思う存分発揮できる場です。一方公園側の平面は、様々な出会いとイレギュラーなイベントを多数誘発するような、何がおこるかわからない自由な未来の文化のための空間です。その中心に全階に渡って過去と現在、未来をつなぐ震災ミュージアムを配置することで、全ての場所で震災文化に触れることができ、過去と未来を、あるいは固定的な場所と自由な場所をつなげる役割を果たす、そんな3種の場を作ります。

2 設計を進める上で特に留意すること

2-1：参加型設計プロセス

設計序盤ですでにできるだけ多くの関係者・専門家・有識者に対してリサーチ・ヒアリングを行います。そこで得た知見をプロジェクトブックとしてまとめ、一般に公開します。昨今の社会的の分断、施設や開発に対する反対運動などは、対話の欠如が主な原因と考えられます。施設を設計するにあたり、専門家や関係者がどのような意見を持っていて、先端の技術はどこまで進んでいて、多様な議論とスタディ、検証を経て最適解を導くというプロセスを共有することが、人々の本計画に対する関心を高め、施設建設前から愛着をもってもらい、できるだけ多くの人々がプロジェクトに「参加」してもらうことができるような「参加型設計プロセス」を実現します。

2-2：SNS・ワークショップによる意見集約

参加型設計プロセスの一貫として、日々の設計段階の議論等を発信する SNS (Instagram, X, Threads 等) の開設、設計チームと将来の運営チームを一体化した広報チームを結成し、様々な情報を発信、様々なご意見をフィードバックできるような仕組みをつくりまます。対面でのワークショップも行い、その中で VR 体験や使い方のイメージを描く、といったコンテンツで様々な意見集約を行います。そうした議論や検討を常に発信することで、フィードバックのサイクルを格段に密度高いものとし、誰にとっても「自分ごと」として感じてもらえるようにします。新しい技術を積極的に試し、遊ぶ場を作ります。

2-3：多様な次世代のインクルーシブ建築

この施設では、多様な人々によって多様な活動を創造することを目指しています。そのために、様々な立場・考え・年齢や性別・身体的特徴・文化的バックグラウンド・目的・嗜好といったことを許容する、真にインクルーシブな建築を目指します。マイノリティの意見を取り入れ、いかに多くの関係者の立場を想定できるか、ユニバーサルデザインと共に、一歩進んだ建築のインクルーシビティを、仙台の公共施設モデルとして取り組みます。

3 コスト削減に関する提案

3-1：細かいフェーズ分けによる精密な積算

基本設計完了時の積算の精度を上げ、コストをコントロールしながら適切に削減するため、基本設計序盤・中盤に仮積算を行います。そこで得た数量・仕様を見極めながら、コストチェックのフェーズを細かく行うことで、基本設計終了時の見積りが超過しないよう配慮します。

3-2：BIM 等による設計検討と数量把握の連動

設計時のプラン変更による壁量や鉄骨料の数量などを概算レベルで 3D モデルと連動させ、設計案と数量把握を連動させます。常にコストを意識した設計プロセスを目指します。

3-3：曲率設定によるプレキャスト化

9m グリッドを中心とした円弧から半ば自動生成されるような平面を採用することにより、曲率一定の PCa を採用したり、家具モジュールを一定にしたり、複雑なファサードを少数のユニットで制作したり、適切にパターン化することを駆使しながら、このデザインだからこそ可能な建設コスト削減の工夫を行います。

4 将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

4-1 更新を想定した設備機器の分離

施設の長寿命化を図るために、将来の大規模改修のしやすいよう、躯体より寿命の短い設備系統はできる限り躯体から分離させて改修できるように設計します。居住域の近くを空調する効率のよい床下空調を採用しますが、床下やスラブ下にチャンバーを設けてダクトレスとすることで、イニシャルコストを下げながら高耐久の仕組みをつくりまます。性能の向上が期待できる機械類・設備機器は入れ替えを前提に設計します。

4-2 常に施設をリノベーションしながら使う

建築の長寿命化でもうひとつ重要な要素は、時代による施設の陳腐化です。時を経ても変わらない良さを持ち続ける施設を設計するのは大前提として、中身は常に最新の状態にアップデートし続けていける施設のあり方を目指します。そのために、建築本体は躯体壁、柱、スラブ、といった可能な限りシンプルな構成をキープし、そこに常に新しいものを不可していくような、常にインテリアが変化しつづけるような平面とします。また一部が模様替えや改修中でも他に影響がないような、常に何かが起きてもおかしくないおおらかさを計画します。常にリノベーションが起ることを想定して設計することは、日々のイベント、展示の入れ替えや、ポップアップ企画など、空間の使い方の柔軟さにもつながり、新しい文化を生み出す萌芽となります。

設計の理念と考え：特に大切にしている3つの視点

合理的で、誠実で、楽しく、新しい。そんな基本姿勢に加え、本プロジェクトでは特に以下の3つの項目を大切にします

①人と人の関係

合理的で多様な「活動」と「関係」を生み出す柔軟な平面計画とします



②敷地と周辺環境の関係

敷地内外をつなぎ、溶け込み、青葉山公園・広瀬川との関係をつくりまます



③計画と社会の関係性

震災復興の拠点・仙台の文化拠点としての場・体験をつくりまます



3種のミーティングとデザインプロセスのアーカイブ・公開 情報共有を前提としたプロセスの組織化

全体ミーティング (定例)

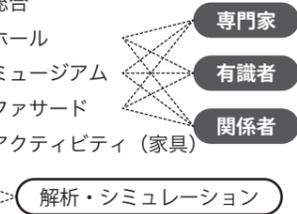
- 全体定例会議
 - 運営 (管理部門) 分科会
 - 企画分科会

ヒアリング

- ヒアリング ●関連施設視察
- 関係者
- 専門家
- 有識者

デザインミーティング (分科会)

- 建築 ○総合
 - ホール
 - ミュージアム
 - ファサード
 - アクティビティ (家具)
- 構造 ●設備
- ランドスケープ
- グラフィック (サイン・VI)



パブリックミーティング (公開)

- ワークショップ
 - WS1: 計画案の提示意見収集
 - WS2: VR体験 未来イメージを描く
 - WS3: 使い方の想定1 関係者大集合
 - WS4: 使い方の想定2 モックアップ体験
 - WS5: 基本設計のお披露目意見収集

↓
ドキュメント化・プロジェクトブックの発行 →プロセスの見える化・議論や検討の共有によって本計画に対する関心を増やし、人々の参加を促します

設計スケジュール案 参加型設計プロセスとフィードバックサイクルによって設計を深める緻密なスケジューリング



参加型設計プロセスのイメージ WS・SNS 発信・ブックレット制作による発信とフィードバック



面積表 空間の複合的利用を前提とした床面積のコンパクト化・コスト削減

延べ面積：29,875 m ²	大ホールステージ	1,165	その他	450	楽屋・控室・搬入部門	944
B1	大ホールホワイエ	730			運営オフィス	775
	小ホール	720	M2F	1,315	展望ラウンジ	225
ステージ下・収納	舞台美術リハーサル	397	楽屋・控室部門	1,315	その他自由な空間	1,680
搬入部門	楽屋・控室・搬入部門	1,880	3F	7,225	その他	450
ミュージアム部門	その他	1,490				
倉庫・工房・機械室	メモリアルプラザ	632	震災ミュージアム	496	RF	975
その他	震災ミュージアム	454	大ホール2階席	450	震災ミュージアム	225
	カフェ	300	ワークショップ	245	レストラン	450
1F	クワイエットルーム	64	創作アトリエ	150	その他	300
	大ホールホワイエ	926	こどものための空間	230		
	小ホールホワイエ	380	音楽リハーサル室	397		
	楽屋・控室・搬入部門	1,978	練習室	798		
			仙台フィルオフィス	385		